

(2012年度山西大学奨学生レポート5月)

中国の音楽フェスティバルを通して

神谷 俊之

天気はとても暖かくなり、最近はほとんど半そで半ズボンでいます。天気が良い日は部屋にいるのがもったいないので、バスケットボールやジムなどに行って体を動かすようにしています。今回のレポートでは北京で開催された音楽フェスティバルについて報告したいと思います。

5月25日に北京電子音乐节という音楽フェスティバルに行ってきました。このフェスティバルは中国人の間ではあまり知られてないようですが、中国に住んでいる外国人からは結構知られていて、私は山西大学の留学生の友達から誘われて一緒に行くことにしました。北京へは快速の電車を使い、かかった時間は大体2時間ほどで片道200元ぐらいでした。普通列車は69元と安いですが10時間近くかかり、また椅子も固くて座り心地が悪いと聞いたので、値段は少し高くなりますが北京に行くときは快速の電車がおすすめです。北京に着いたら、以前北京で知り合った中国人の友達と合流してからフェスティバルの会場に行きました。彼らは日本音楽がとても大好きで、彼らは私に「中国と日本の関係は悪いけど、音楽も人も国籍は関係ない」と言ってくれました。私もその通りだと思います。中国と日本の政治の関係はいいとは言えませんが、そのことによりその国の人を嫌いになるのは間違いだと思います。そういう面で私はこの留学を通して中国の色々なことについて知ることができました。自分の国にいる時よりも海外にいた時の方が当然外国人と接する回数も多くなり、それにより海外の情報を多く知ることができます。その意味でこの留学は中国、また他の外国についても知ることができました。私は彼らと出会い本当に良かったと思いました。そしてフェスティバル会場に着いた時には多くの人で賑わっていて、来ているお客さんの7割ぐらいは外国人でした。またこのフェスティバルの会場が工場ということでとても驚きました。夜にはライトアップがとても綺麗で、また音楽もとても良くとてもいいフェスティバルでした。



フェスティバルの会場



夜の時の会場